

AI を使用した水道管路劣化診断及び診断に基づくリスク可視化業務
審査基準

AI を使用した水道管路劣化診断及び診断に基づくリスク可視化業務の審査基準に関し、以下のとおり定めるものとする。

1 審査方法

提案書及びプレゼンテーション、見積額により評価を行い、各評価内容の得点の合計（総合点）が最も高い者を受託候補者として選定する。

2 審査の配点

評価内容ごとの配点は以下のとおりである。

評価内容	配点
提案書及びプレゼンテーション	90 点
見積額	10 点
総合点	100 点

3 得点算出方法

1) 提案書及びプレゼンテーション（配点 90 点）

ア 審査委員による採点

審査委員は別表にて 5 段階（A～E）の評価を行い、以下の計算式により採点する。

各審査委員の採点＝評価点の配点×評価係数

評価階級	評価基準	評価係数
A	優れている	1.0
B	やや優れている	0.8
C	普通	0.6
D	やや劣る	0.4
E	劣る	0.2

イ 得点算出

以下の計算式により得点を算出する。（小数点以下切り捨て）

得点＝各審査委員の採点合計／審査委員数

2) 見積額 (配点 10 点)

見積額は以下の計算式により算出する。(小数点以下切り捨て)

$$\text{得点} = \text{配点} \times (\text{最低提案額} / \text{提案額})$$

- ・ 最低提案額

見積書提出者の内、最も低い見積額を提示した者の価格

- ・ 提案額

当該提出者の見積額

提案書の評価項目及び評価内容

1. 提案内容

種別	評価項目	評価内容	配点
組織	会社概要	資本金、売上高、従業員数等の信用性	10
	資格	業務遂行上、有用性が認められる資格の取得状況 (ISO、プライバシーマーク等)	
	実績	類似業務の受注実績	
	モデル性	交付金採択実績（デジタル庁サービスカタログ、 上下水道DX推進事業等）、実装後継続支援策	
実施方針	取組方針	業務目的、業務内容を理解しているか	20
	実施計画	業務フロー、工程、工程管理が適切か	
	理解度	地域特性、課題を把握しているか	
	実施体制	構成人数、危機管理（緊急・災害時業務継続対応）等の体制は整っているか	
提案内容	業務要件	劣化診断手法（考え方、長所、算出年数等）	20
		データ補正及び補完内容、手法が適切か	
		環境データ等の使用データは適切か	
		診断結果に対する精度検証、改善提案が可能か	
		リスク評価に基づく可視化の反映方法は有効か	
		発展性（更新計画、アセットマネジメント等）	
	閲覧システム	形態、特徴、拡張性等	10
		利便性、機能性（閲覧、検索、集計等）は十分か	
	セキュリティ対策	セキュリティ対策は十分か	10
		個人情報管理及び方法は十分か	
	継続対応	交付金実施計画における3年間のKPIを達成するための継続支援及び必要となる保守・AIモデル更新費用の提案がされているか。	10
	プレゼンテーション	説明への一貫性、提案書の内容は補完しているか	10
		要点に絞った分かりやすい説明はできているか	
質疑応答は明確であったか			
(小計)			90

2. 見積額

種別	評価項目	評価内容	配点
金額	見積金額	審査基準の計算式より算出	10
(小計)			10
(合計)			100